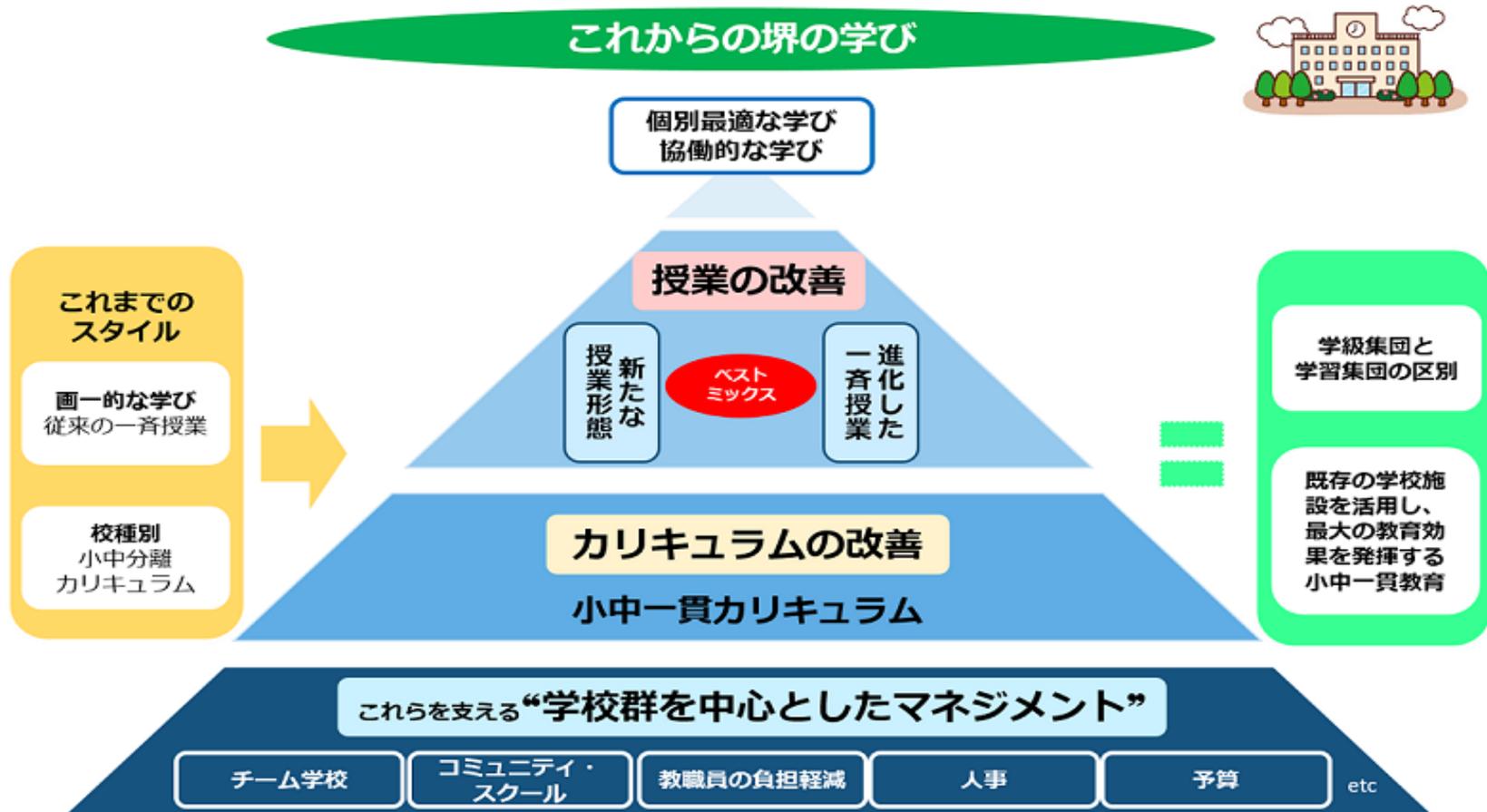


新たな学校のあり方について

○ 令和3年度総合教育会議での議論

急激に変化する時代に生きる子どもたちの資質・能力を育むため、**これからの堺の学び（個別最適な学び・協働的な学び）**の実現に向け、堺がめざす新たな学校のあり方として、中学校区を構成する小・中学校を「**学校群**」という1つの単位として、「**授業の改善**」「**カリキュラムの改善**」「**学校群を中心としたマネジメント**」に一体的に取り組んでいくことを共有



○ モデル学校群として5つの中学校区を選定

・令和5年度からのモデル実施に向けて取組の準備を進めている

学校群 (中学校区)	構成する学校	所在区
陵西学校群	陵西中学校、少林寺小学校、安井小学校、大仙西小学校	堺区
旭学校群	旭中学校、大仙小学校、神石小学校	堺区
若松台学校群	若松台中学校、上神谷小学校、若松台小学校、茶山台小学校	南区
三原台学校群	三原台中学校、三原台小学校、泉北高倉小学校	南区
五箇荘学校群	五箇荘中学校、五箇荘小学校、五箇荘東小学校、新浅香山小学校	北区

○ モデル学校群で検討中の事項

- ・学校群の現状と課題の把握、整理
- ・学校群で共通の中長期的な目標の設定



今後、学校群目標を達成するためのカリキュラムや授業の具体的な取組を検討

○ 教育は今、3回めの大きな転換期を迎えている



皆が同じことを一斉にやり、皆と同じことができることを評価してきた**これまでの教育に対する価値観を変えていくことが必要**

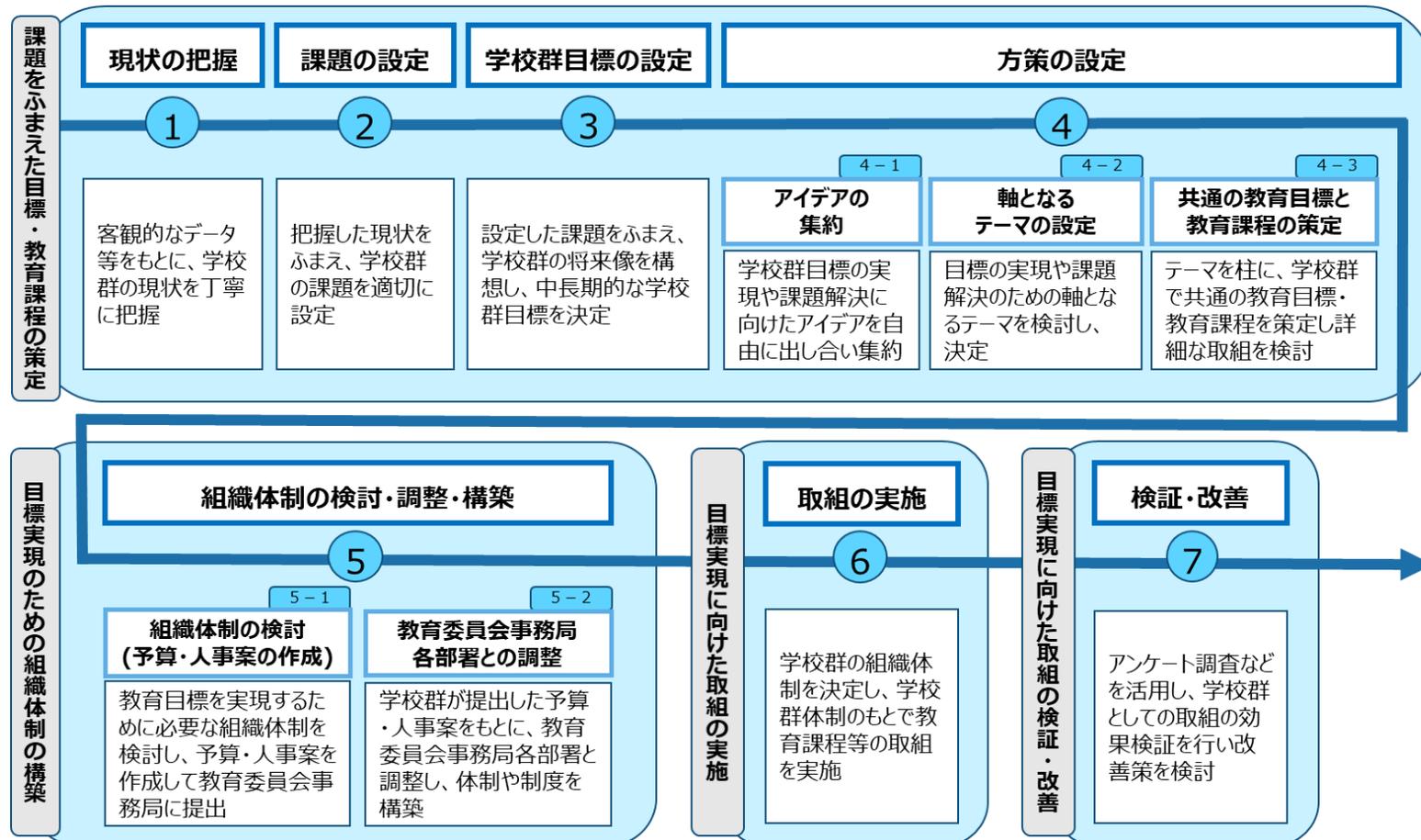
これまでの価値観	これからの価値観
画一的な人材育成	多様性を認め、個性を伸ばす人材育成
一律の取組	特色・創意工夫ある取組
受動的	主体的
指導者主体	学習者主体
子どもは教えなければ ならない白紙の存在	子どもは自ら学ぶ意思を もった存在

価値観の捉え直し

- 社会の変化、教育の変革を受け止め、学校教育はどうあるべきかを考えていくことが重要
- これまでの教育に対する価値観を転換し、これからの堺の学び（個別最適な学び・協働的な学び）を実現

モデル学校群での取組の進め方①

- **モデル学校群の取組を進めるうえでのポイント**
 - ・中学校区を1つの単位「**学校群**」として一体的に運営
 - ・「授業の改善」「カリキュラムの改善」「学校群を中心としたマネジメント」に取り組む
- **モデル学校群での取組検討プロセス（例）**



○ 想定されるモデル学校群での取組例

【授業の改善】

- ・学校群の教職員全員のマンパワーを活用した子ども一人ひとりの個に応じた学びの提供
- ・学級集団だけでなく学習集団などの多様なグループでの学びの場づくり
- ・子どもが学校群内のさまざまな他者と学ぶ機会の創出

【カリキュラムの改善】

- ・学校群共通の9年間を見通したカリキュラムの編成・実施
- ・子どもの発達状況に応じた段差（ギャップ）を学校群全体で柔軟に設定
- ・ICTや学校群内の施設などを有効活用し、新たな学びのかたちを構築

【学校群を中心としたマネジメント】

- ・学校群の教職員全員で学校群内の子どもの実態を把握し、子どもの指導・支援体制を構築
- ・学校群全体で業務・校務分掌を見直し、再構築して教職員が子どもと向き合う時間を確保
- ・管理職、主任、教科担当など学校群内で同一の役割を担う教職員ごとにチーム体制で業務を執行
- ・学校群内の予算や施設等を一体のものと捉えて活用

堺がめざす「新たな学校」 令和4～7年度スケジュール

